

令和 2 年 6 月 18 日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K21430

研究課題名(和文) Language Motivation and Culture beyond Personality Traits

研究課題名(英文) Language Motivation and Culture beyond Personality Traits

研究代表者

マキュワン 麻哉 (McEown, Maya)

早稲田大学・教育・総合科学学術院・准教授

研究者番号：00757354

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本の言語教育環境(英語とそれ以外の外国語)において、学習者の心理的要因・環境的要因が、どの様に言語学習パフォーマンスに影響を与えているのかを調査した。主な結果として、(1)英語に対する動機づけがその他の外国語学習に対する動機づけに影響をしていること、(2)教員や親の価値観等が、言語学習においては、学習者の動機づけ志向性に含まれていること、(3)またそれらが言語学習の心理的要因に様々な影響を与えていることが分かった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、英語とそれ以外の外国語の2言語学習者を対象に、様々な心理的要因を包括的に測定したことに学術的意義がある。英語に対する動機づけがその他の外国語学習に対する動機づけに影響をしていることが分かり、今後、「英語」教育における動機づけ・心理的要因の研究分野でも、対象者が「英語以外の言語を話すのか」という視点」が、研究に取り入れられる必要があるということが分かった。

研究成果の概要(英文)：The research project investigated to what extent individual psychological factors and environmental factors affected motivation among learners of English and a language other than English(LOTE). A summary of the main results follows: (1)There were positive and negative interplays between motivation toward English learning and motivation toward LOTE; (2) learners incorporated parental/important persons expectations into their language learning motivational orientation; and (3) those aforementioned factors affected learners' psychological factors during language learning processes.

研究分野：外国語教育

キーワード：動機づけ 英語 外国語 心理的要因

様式 C-19、F-19-1、Z-19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究は、日本の言語教育環境において、学習者の心理的要因・環境的要因が、どの様に言語学習パフォーマンスに影響を与えているのかを明らかにするために行った。

日本で行われている言語教育研究は、研究対象言語を「英語」に限定している場合が多く、その他の外国語に関しては調査が十分に行われているとは言えない。昨今日本における大学生は、2種類の外国語(英語ともう一言語)を同時に学ぶことが多く、この2種類の言語学習における動機づけは互いに影響があると考えられる。そのため、本研究での対象言語を「英語」と「英語以外の外国語」の2種類とした。

2. 研究の目的

本研究は、日本における英語とそれ以外の外国語の2種類を学んでいる大学生を対象に、以下の事項を検証した。

- (1) 英語以外の外国語を学ぶ動機づけは、どの程度、その外国語に対する態度、学習への努力度、また、外国語能力に対する自己評価、に影響を与えるのか (Sugita McEown, Sawaki, & Harada, 2017)
- (2) 英語以外の外国語に関して、教える教員や親からのサポートが、どの程度、その外国語を学習するという動機づけに影響を与えるのか (Sugita McEown, Sawaki, & Harada, 2017)
- (3) 英語以外の外国語の動機づけのプロセスが、英語に対する動機づけとどのように関わってくるのか (Sugita McEown, Sawaki, & Harada, 2017)
- (4) 個人の目標志向性が英語への自己調整学習のプロセス(メタ認知・認知方略・自己効力感など)にどの様に影響をしているのか (McEown & Sugita McEown, 2018)
- (5) 周囲からの期待がどのように言語を学ぶ動機づけに影響を与えているのか (Sugita McEown & McEown, 2019)
- (6) 文化や親などの期待をどの程度認知し、学習プロセスに取り入れているのか (Sugita McEown & McEown, 2019)
- (7) 学ぶ外国語の種類によって、動機づけと影響を与えられる要因の関係性は異なってくるのか (McEown & Sugita McEown, 2020)

3. 研究の方法

本研究は、上記7つの目的を検証するため、質問紙調査を4回と質的調査(1回)を行った。

研究目的(1)～(3): 英語と英語以外の外国語の両方を学んでいる大学生250名を対象に質問紙調査を行った。測定項目は、self-related motivational orientations, attitude toward L2 community and language, intended effort, power distance, collectivism などである。共分散構造分析が用いられた。(Sugita McEown, Sawaki, & Harada, 2017)

研究目的(4) 212名の大学生英語学習者を対象に質問紙調査を行った。主な質問紙項目は、Intrinsic value, self-efficacy, metacognitive strategy use, cognitive strategy use, Teacher and parental support, goal-orientation である。分析には、相関分析、共分散構造分析が用いられた。(McEown & Sugita McEown, 2018)

研究目的(5) 英語を6年以上学習している243名の大学生を対象に質問紙調査を行った。主な測定項目は、inclusive/individual intrinsic motivation, inclusive/individual identified regulation, inclusive/individual ideal L2 self, power distance, parental support, self-rated English ability and English learning effort である。分析には、因子分析と共分散構造分析を使用した。(Sugita McEown & McEown, 2019)

研究目的(6) 18名(男性11、女性7)の大学生を対象に、質的調査(主に自由記述による質問紙)を行った。英語能力別に、記述内容を分析した。(Sugita McEown & McEown, 2019)

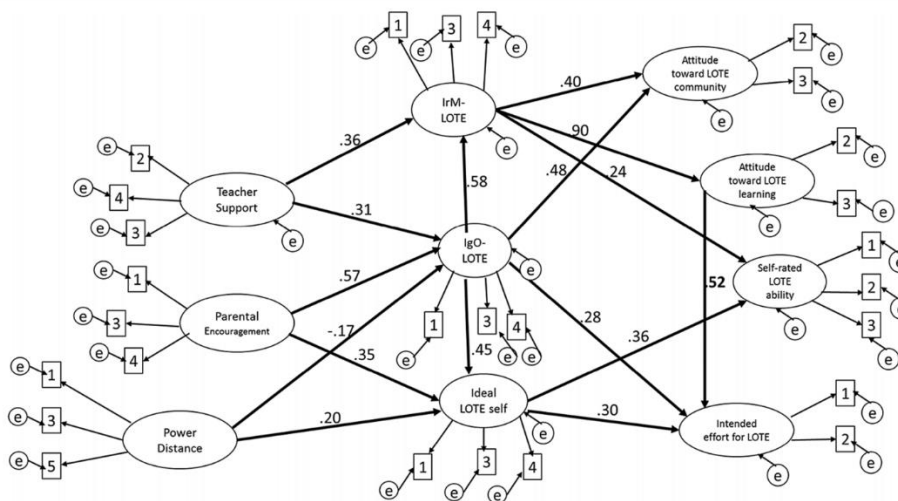
研究目的(7) スペイン語、フランス語、中国語、ドイツ語の外国語を学ぶ大学生を対象に、学習している外国語別に質問紙分析を行った。内訳は、スペイン語(76名)、フランス語(62名)、中国語(41名)、ドイツ語(42名)である。測定項目は、Intrinsic motivation、Introjected

regulation, Integrative orientation, L2 anxiety, parental support, teacher autonomy support などである。分析には、分散分析と重回帰分析が用いられた。(McEown & Sugita McEown, 2020)

4. 研究成果

研究目的 (1) ~ (3) : 主な結果として、文化はあまり影響がなく、教員や親の介入が学習者の外国語学習に対する動機づけ志向性に影響をし、それらが、外国語学習の努力度、外国語やそのコミュニティーに対する態度に影響を与えていることが分かった(Sugita McEown, Sawaki, & Harada, 2017)。

FIGURE 1
Standardized Parameter Estimates for Model 1

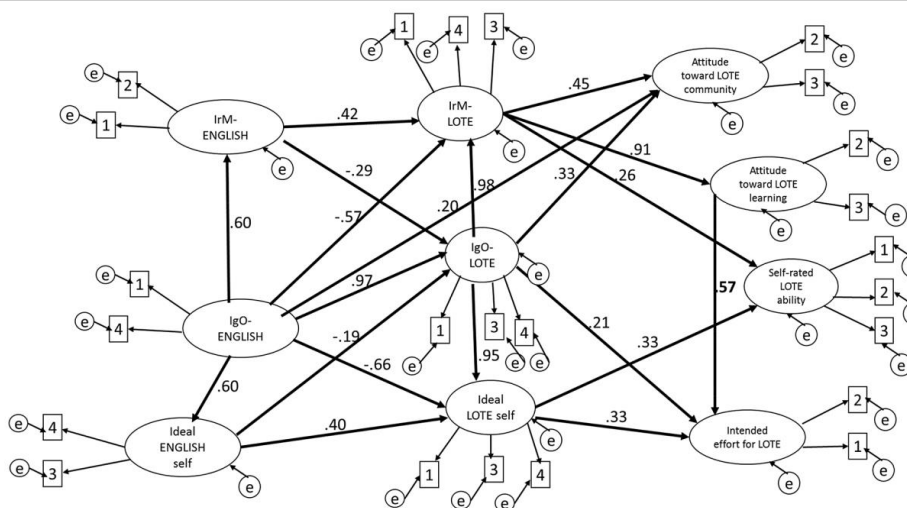


Note. LOTE: language other than English; IrM-LOTE: intrinsic motivation for LOTE; IgO-LOTE: integrative orientation.

(Sugita McEown, Sawaki, & Harada, 2017, p541)

さらに、英語学習の動機づけが、英語以外の外国語学習の動機づけにどの様に影響を与えているかを分析した結果、英語学習に対する動機づけは、外国語学習に対する同じ動機づけ志向性に対しては良い影響を与えているが、違う動機づけ志向性には負の影響を与えていることが分かった(Sugita McEown, Sawaki, & Harada, 2017)。

FIGURE 2
Standardized Parameter Estimates for Model 2



Note. LOTE: Language other than English; IrM-LOTE: intrinsic motivation for LOTE; IgO-LOTE: integrative orientation; IrM-ENGLISH: intrinsic motivation for English; IgO-ENGLISH: integrative orientation for English.

(Sugita McEown, Sawaki, & Harada, 2017, p543)

(4) 主な結果として、目標志向性の中でも、mastery goal と performance-approach goal が言語の自己調整学習のプロセスに良い影響を与えていることが分かった (McEown & Sugita McEown, 2018)。

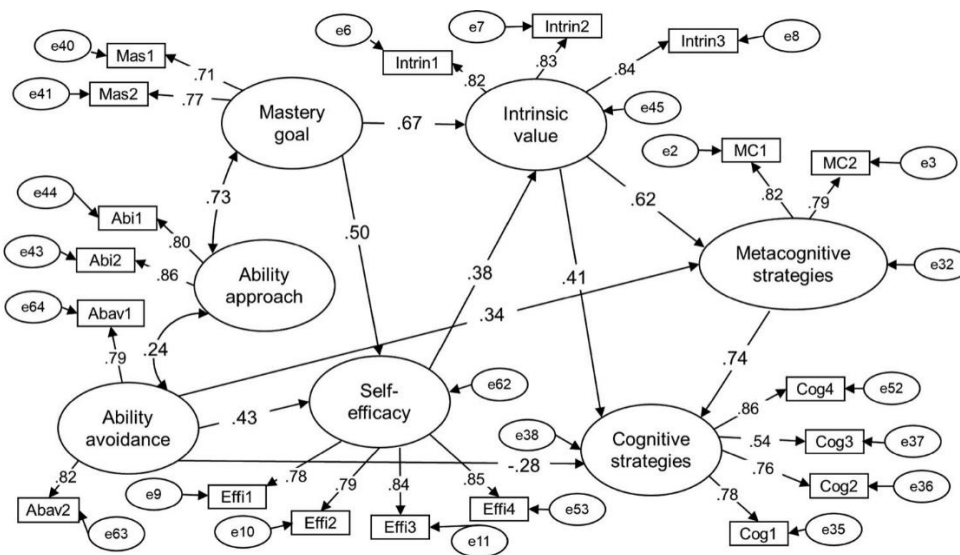


Figure 2. Path model of individual components affecting self-regulated learning processes. Mas = mastery goal; Abi = performance-approach goal; Abav = ability-avoidance goal; Effi = self-efficacy; cognitive strategies; MC = metacognitive strategies; Intrin = intrinsic value.

(McEown & Sugita McEown, 2018, p9)

(5)、(6) 主な結果として、言語学習においては、親からの期待や親の価値観などが学習者自身の動機づけ志向性に含まれていることが分かった。また、これらの動機づけ志向性が、言語学習に対する努力度や自己評価に影響していることが分かった (Sugita McEown & McEown, 2019)。

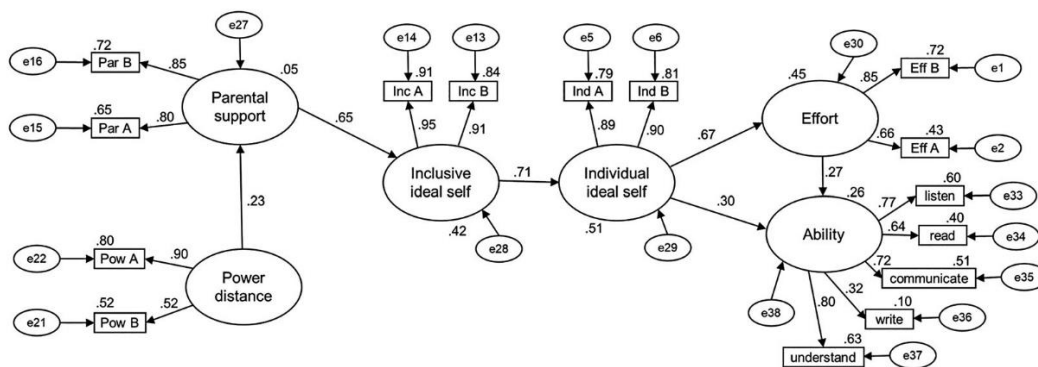


Figure 1. Path model of social/contextual factors and inclusive/individual ideal self affecting motivational/academic outcomes.

(Sugita McEown & McEown, 2019, p9)

(7) 主な結果として、2つの動機づけ志向性 (Intrinsic motivation と Integrative Orientation) は、学習している外国語の種類に関係なく、多くの動機づけプロセスに関わる要因を説明していることが分かった。(McEown & Sugita McEown, 2020)

引用文献：

McEown, K., & Sugita-McEown, M. (2018). Individual, parental and teacher support factors of self-regulation in Japanese students. *Innovation in Language Learning and Teaching*, 13(4), 389-401.

McEown, K., & Sugita-McEown, M. (2020). The role of positive and negative psychological factors in predicting effort and anxiety toward languages other than English. *Journal of Multilingual and Multicultural Development*, 1-13.

Sugita-McEown, M., & McEown, K. (2019). The role of parental factors and the self in predicting positive L2 outcomes among Japanese learners of English. *Journal of Multilingual and Multicultural Development*, 40(10), 934-949.

Sugita McEown, M., Sawaki, Y., & Harada, T. (2017). Foreign language learning motivation in the Japanese context: Social and political influences on self. *The Modern Language Journal*, 101(3), 533-547.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 4件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Sugita-McEown Maya, McEown Kristopher	4. 巻 -
2. 論文標題 The role of parental factors and the self in predicting positive L2 outcomes among Japanese learners of English	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Multilingual and Multicultural Development	6. 最初と最後の頁 1~16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.1080/01434632.2019.1597874	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Maya Sugita McEown, Yasuyo Sawaki, Tetsuo Harada	4. 巻 101
2. 論文標題 Foreign Language Learning Motivation in the Japanese Context: Social and Political Influences on Self	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 The Modern Language Journal	6. 最初と最後の頁 533-547
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.1111/modl.12411	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Kristopher McEown, Maya Sugita McEown	4. 巻 12
2. 論文標題 Individual, parental and teacher support factors of self-regulation in Japanese students	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Innovation in Language Learning and Teaching	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.1080/17501229.2018.1468761	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Kristopher McEown, Maya Sugita McEown	4. 巻 -
2. 論文標題 The role of positive and negative psychological factors in predicting effort and anxiety toward languages other than English.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Multilingual and Multicultural Development	6. 最初と最後の頁 1 - 13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.1080/01434632.2020.1767634	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Maya Sugita McEown, Kristopher Scott McEown
2. 発表標題 Incorporating the Inclusive L2 Self into Self-Related Motivations in a Japanese EFL Context
3. 学会等名 International Symposium on Education and Social Sciences (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Maya Sugita McEown, Quint Oga Baldwin
2. 発表標題 Self-determination for all language learners
3. 学会等名 Psychology of Language Learning conference (PLL3) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Maya Sugita McEown, Kristopher McEown
2. 発表標題 Incorporating the Inclusive L2 Self into Self-Related Motivations in a Japanese EFL Context
3. 学会等名 International Symposium on Education and Social Sciences (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考